

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:大橋健司、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第187回哲学カフェ例会(2024.1.11)

《日本の行く末を考える》

「やはり日本の現状については皆さんかなりきびしいですね。だが明日が全く見えないというわけではありません。なんとか力を合わせたいところです。」

<問題提起> 主宰者:吉田千秋

新年明けましておめでとうございます。昨年に引き続き明るい明日がくっきり見ませんが、お互い元気に意見交換したいと思います。

さて、今回は「日本の行く末を考える」というテーマで、日本の展望を探りたいと思います。ボクが年始めに書いた小文や、新聞社説、論評などの資料を基に問題提起したいと思います。

まずは、世界の中で日本はどういう立ち位置にあるかということです。まだまだ多くの人は、日本はいまもなお大国で、大きな力と影響力を持っていると思っています。だが、国民総生産(GDP)はドイツについて第4位です。豊かさのバロメーターである一人あたりのGDPは何と21位で、「先進国」では最低です。

この経済的な凋落に加えて、長期的な人口減もありますが、政治的な発言力はG7[議長国]という看板は名ばかりです。指導性は全く発揮できず、戦争の危機、環境の危機、貧困格差の増大にまったく貢献できていません。なぜこうなったのか、どうすればいいのか、これを真剣に考えなければなりません。

その眼目は、かつて世界の人々から、敗戦から立ち上がって復興をなしとげたこと、平和憲法を持っていて絶対戦争をしない国と尊敬されていたことを再び得られるようにめざすべきだと思います。

そのためには、いまの日本の凋落傾向を直視し、「大国」主義、「成長」主義にしがみつくと発想からおさらばすることではないでしょうか。かつて1930年代の石橋湛山は「大日本主義」の幻想を捨て、植民地を放棄する「小日本主義」を唱えた。「大国」「成長」は他国の排斥・侵略に至るのである。



「政治小国」「経済中国」でよい。めざすは他国の人と仲良くし、国内でも皆が助け合って生きていく「人権」大国ではないでしょうか。

その根本条件は、日々の生活の安定と将来への不安のない平和な社会を築くことでしょう。その点で、いま政府のめざしている軍事拡大路線、前のめりの戦争準備は全く愚の骨頂ではないでしょうか。

世界史の輝く結晶と言える日本の平和憲法を壊すのではなく、「武力ではなく対話を」という根本精神を今こそ活かすべきではないでしょうか。

今日は、皆さんが考えている日本の明日について語り合いたいと思います。



ジョウビタキ♂

*今回の挿し絵写真は、箕浦秀樹さん(岐阜大学名誉教授)の提供によるものです。

<意見交流>

- 日本としては、「独立国」になることが重要な一
と思います。例えば、会社勤めに比べれば自営で
稼いでいる人の方が自由にお金を使えますよね。
日本は「日米同盟」で生きてきた国ですが、形は対
等に見えても実質はアメリカの「植民地」。それを
企業にたとえると、そこに勤める従業員となりま
す。そのアメリカが昨今は落ち目ですから、従業員
に労働強化というか、過大な要求を段々してい
る。次は中台で紛争が起こってアメリカが介入し
ていくと、怖いことになる。だからチョッと離れ
ることが大切だと思います。
- 日米関係を研究している白井聡も同じようなこと
を言いますね。しかも安倍内閣の辺りからは、自ら
アメリカに積極的に尻尾を振っていく従属です。ト
ランプ政権が誕生時に、彼は他のどこの国の首脳
より先に、お土産を持って会いに行った。そしてア
メリカの要求を先回りしてのむ外交。最初はイー
ジス・アショアなんかを買う、それが次々と増え
「爆買い」状態である。また「台湾有事」につい
ても、アメリカ海軍のインド太平洋司令官が下院の
予算請求のための委員会で行った発言に、共和党
などの反中保守派が過剰反応し、それに日本でも
防衛族などが呼応し、「台湾危機は日本の危機」と
いう冷静さを欠いたアベ発言になっていった。
- 日本は中国・北朝鮮・ロシアという「ならず者国家」
に囲まれているわけですから、今のままでいいわ
けはない。今まで安全保障面ではアメリカ任せに
してきた。その「アメリカの力」がなくなってきた時
代に入り、いつかはアメリカが日本を「切る」時が
来る。それに備えて、日本は自分の足で立てるよ
うにならないといけない。だが、国会ではカネがら
みの内輪もめばかりで、「自立の課題」は国民も諦
め気味だ。
- 最近日本で少し変わってきたことが4つある。ジャ
ニーズ、宝塚、吉本、清和会の問題が表に出てき
た。今まで隠されてきた問題を告発したのは、マイ
ノリティーの立場にあった方々が多い。それはいい
兆候かな一と思う。また、アジアは経済成長がう
まくいっているものの、性差別の問題などでは、



ジョウビタキ♀

日本が頭一つ抜けている。そんな中、能力がありながらも差別されているアジアの人材を、日本が受け入れる余地があるのでは。さらに、宗教的なタブーのない寛容さも活かせると思う。

- 今若い人がベンチャー企業をスタートアップして、自力で新しいものを作ろうとする試みが間違いなく増えている。昔は貧しかったから大企業志向が強かったけど、今は違って自分で何かを変えていきたいな一という若者は、起業を選ぶことが多い。それを受け入れる社会の体制も徐々にできている。
- その例ですが、チャットGPTの創設者が生成AIのプロジェクトを日本で立ち上げると言っています。その理由は宗教的タブーが少ないからだそうで、自由に研究しやすいそうです。また、日本には世界で評価されているアニメがあります。それは中身が「覚醒コンテンツ」で、人気があるのだそうです。一方アメリカのディズニーのアニメは「洗脳コンテンツ」で、アメリカ流の生活スタイルの普及が裏側にあると見られています。日本のアニメはそれと一線を画し、生き方の問題提起のようなものもあります。
- 宮崎駿のアニメが海外で評価されていると思いますが、そういう図式に当てはまらないのでは？ フランスにはコミックの文化はあったから日本のものが結構読まれているが、その他のヨーロッパではそもそもアニメ文化はなかった。そちらから見ると比較の対象がない中で、アニメは日本の文化、ということになっているではないか。

○日本アニメの原点は手塚治虫で、アトムという人間に寄り添うロボットを作った。ロボットは労働を奪う敵とみなされた西欧とは違った存在として描いた。その先駆性が、後の日本のオートメーションの発展に繋がったという指摘もある。ドラエもんも猫型ロボットで、子どもに寄り添い助ける存在で、独自の文化の創造だったと思います。



ツグミ

○今後、世界はものすごく多様な文化を包摂する中で、お互いに繋がりがあっていかななくてはいけない、という方向性は大体共通認識になっている。その際の障害になるのが宗教で、事実としてそうした事例が多発している。その点日本の宗教はいろいろあるにしても融通無碍で、何でも取り込んできたという歴史がある。今後は文化面だけでなく人権などの面でも、宗教を超えて力を合わせましょうという発信ができる立場にあり、これを生かしていける可能性があるのではないかと。

○日本の文化は、伝統的な価値に外からの宗教も含めて様々な文化を取り込んで融合させてきた。それをどう武器にするかは解からないが、その線で外貨を稼げれば・・。

○日本には古くから、本地垂迹の思想< = 仏と神々は根本的には同じで、日本の神々は国内の実情に合わせて仏(本地)が姿を変えて現れてきたもの(垂迹)とされたとの考え>があり、明治からは翻訳主義で欧米化してきた。その中で日本の独自性が発揮できないという問題が大本にある。また、戦後社会で言えば、一貫して上意下達で、そこから脱却できないことが最大の問題だと思う。やはり自分自らが考え、自ら判断し、自ら実践して最終的には自ら責任を取る、ということまで行けてない。対米従属の問題とも重ねて、自分の頭で考えないところが最大のネックと考える。

○普段学生と話していると、彼らは日本が先進国だとは思っていない。給料が上がらない中インフレで生活が苦しい社会を見ながら、どうやって稼ぐかを考えています。NISA< = 個人投資家のための税制優遇制度>で資産運用するとか、子どもを外国で学ばせるとかの話題が会話に登る。今はたまたま日本にいただけで、資産があれば別に日本で暮らさなくてもいい、という感じですね。

○若者には日本での将来の生活が見えないのですよ。そんな中で新NISAとか暗号通貨が身近になり、大金を稼げたという情報を耳にすると、感覚が変わってくるのではないのでしょうか。根本的に言えることは、日本の国に期待しないということが第一です。

○自分の子どもも、ネットで株式投資や暗号通貨の取引をやっています。給料が上がっていかないのは明らかで、自分も勧めています。

○それにはリスクが伴います。勝つ時があるのは、負ける時もあるのであって、結局リスクを避けるために分散投資なんかを推奨されています。しかし、一度当っておいしい思いをすると、地味に働くことの意味が薄れていくという問題もあります。

○日本では、非正規が4割、将来は厚生年金ももらえない。となれば防衛方法を考えるのも当然でしょう。

○今はレバレッジ< = 借入れを利用して、自己資金のリターン収益を高める>を利かせて取引ができますので、浮き沈みの幅が大きくなり、ギャンブルの領域になります。またその弊害を避けるいろいろな方法が提案されていますが、経済が右肩上がりならそれも有効でしょうが、下がる時期に現金が必要で、下がり続ければ、もう人生が土台から変わる。

○結局日本では、政府の恩恵というものを若い世代は知らないし、たまたま障害者年金なんかを受給するとそれを意識することになりますが、普通はない。一方で、生活を楽しむ方向で起業するなどのゆとり層がいる反面、生活保護を受けざるをえなくなった人が、そこから這い上がることができない。結果的にどんどん中間層がなくなっていく。



- 現在の貧富の差の構造の中で、個人的な形で浮上を追い求めるだけでは、どうにもならないのでは。一方では、大企業は大きな内部留保を貯め込み、賃金は正規の労働者の人件費を確保した上で非正規の方は切り詰める。労働組合も非正規に寄り添おうとしない。この構造にどう取り組んだらいいか？
- 我々の世代はまだいい。高度成長の恩恵を受けた親がいるから、何がしかのサポートはある。次の世代はそれが無いから、日本で暮らすことが正解なのか、親も考えますね。歴史的に見ても、結局みんなが幸せは夢物語で、厳しい方が現実で、対して個人は非力です。
- 自分としては、起業家を増やし、誰かに役立ちながら自分の収入も増やす、そういう仕組みを作るのが一番いいのじゃないかと思います。
- 自分の考えは、起業まではいかない小さな副業で不足を補うという感じです。それを気の合う仲間と支え合う、という感じ。。
- かつては、会社が社会全体を回す役割を担ってきたが、最早終身雇用は無理なので、非正規雇用で存続を図っている。その結果、生活をやっていけない人が激増、それで個人が色々手当し始め、広がった、という脈絡です。
- 結局、資本主義の限界で、再配分がうまくいっていない。それを修正するのが政治家の仕事ですが、政治家があんな体たらくですから、国を全く当てにできない。
- 国がダメだから、小さい領域で新たな相互扶助を作っていくかということになっている。それで社会を回すしかない、という感じですね。

- 社会福祉については、アメリカであれ日本であれ、段階的に制度を作り進めてきたわけです。ところが現代の経済のグローバル化の中で、国際的な格差が国内にも反映し、従来の社会福祉では社会矛盾を緩和できなくなってきた、というのが現況。ゆえに、そこにある大本に、どう働きかけるかが問われているのではないかと？
- シングルマザーに対する具体的な福祉の制度を見ても、母子手当とか児童扶養手当などでかなり扶助されている。自治体によっては更にプラスを支給しますから、考え方によっては働かない方が子どものためにも良い、といった矛盾も発生している。もちろん課税最低限度の基準もおかしいし、賃金水準が低すぎるという問題もあります。
- 賃金が低すぎるという問題が根本にあります。資本と労働の関係でいえば、分配率が資本に行き過ぎ、それをひっくり返さないと。。
- 税金が高い問題もありますね。国民負担率が40%以上、50%近い。
- 「だから国が助けるべき」と言うのはちょっと違うと思う。今の福祉は長い間かけてここへ来たという歴史を知って欲しい。
- 日本の何を売りにしていくかということですが、外国人留学生にはやはり日本の食文化や芸能なんかも「クール！」だと受けています。平和国家である点も評価は高い。そういうのを活かす国家ビジョンを打ち出すのがいいと思います。



アオジ

<意見交流を終えて> 吉田千秋

今日は日本の状況や今後についていろいろな角度からの意見ありがとうございました。ともかく、現状はかなりひどい事態になっていて、若者などもお先真っ暗ということで自分の防衛優先の考えも多いということです。

でも、若い人たちや女性の人たちが性被害をはじめとした人権問題で、勇気を出して声を上げ世論をリードしてきたことに注目すべきだという意見も出されました。環境問題や核兵器廃絶、平和問題でも

しかりです。

こういう流れに希望を見出し、日本を誰にとっても住みよい「人権一流」国にできればよいですね。

来月のテーマは、国家予算を取り上げます。そもそも税金とはどういうもので、税金・社会保険料の国民負担はどんどん高くなり、国民への還元はますます細ってきています。日本の明日のために、来月もしっかり意見交換したいと思います。

<例会及び「通信」の感想、意見、便りなど>**○<非核と平和の国家として>**

新春早々能登半島の大震災で、大変なショックを受けている。被災者の方々は、何とか頑張ってくださいといしか言いようがない。政界にも「政治資金規正法違反の激震」が走り、大揺れである。最高責任者の犯罪を立件できず「不起訴」「不起訴」「・・・」の連続では、国民として我慢できない昨今である。まさに道徳律の欠落した自民党政権である(日本社会と言うべきかも?)。

今回の「日本の行く末を考える」カフェでは、多様な意見が出て面白かったのであるが、寺島実郎さんの論考に共感を覚えたので、以下に付記する。

「冷戦後、日本はただ米国流のグローバリズムに合わせることに埋没し、自前の国家構想を見失ってきました。グローバルな全員参加の秩序の中で、耐久力のある(レジリエントな) 強い産業基盤を築き、非核平和と民主主義に徹した理念性の高い国家として存在感を高めるべきです。」 (MS)

○<あらためて日本の行く末を考える>

来年の正月をどのような気持ちで迎えるのか今から心配です。先日の台湾総統選は民進党が勝利したことは良かったのですが、議員過半を国民党に奪われるなど一筋縄ではいかない政権運営となることは明らかです。

何よりも最大のイベントは11月のアメリカ大統領選です。今の日本は、ならず者国家に囲まれている状況で、日米安保に好むと好まざるに拘らず、その庇護のもとに置かれているのが現実です。過度なアンバランスな関係にはならぬようなコントロールを



マガモ

政府に期待しております。現職か、元職か? どちらになっても、不安は尽きませんので、しっかり対応できるリーダーを国内トップに据えることに、国民が真剣に考える時が来ています。

国民一人一人が誰がやっても同じだという考え方を捨てて、自分の生まれ育った国が良くなるようなリーダーを選ぶという民主主義の根本に立ちかえるしかありません。 (ryosa)

○<若者の脱出願望について>

まず、生活の糧を海外に求める若者の脱出願望ですが、今世界中でこの傾向が強まっています。経済成長中の韓国・中国・インドですら同じで、その他の中進国、旧東欧、言わずもがなの途上国でも、洪水のような勢いになっています。富の偏りの結果です。その下で、日本の普通の若者が国際市場に参入したとしても、耐えられるか、大いに疑問です。

私はフィリピン移住に挑戦していた若者に出会ったことがあります。労働条件は当然日本よりはるか



イソシギ

に劣悪で、雇用は非正規が普通、定年まで納得の待遇で働ける雇用は一部の勝者にのみ、基本使い捨てです。他の国でも熾烈さは同じ。それを思うと、それぞれの国での足元から人間らしい労働環境づくりとそれを目指す国際連帯が肝心だと思います。

途上国では、外資や技術の導入で先進国に追いつく政策が取られる反面、これ以上グローバルな資本や商品に荒らされたくないという思いも強いです。日本でも、地域の農業や地場産業などを守りたいとの要求もあります。国境を越えた経済バトルの中で、ローカルな経済と暮らしを守る課題は、世界的な共通願いだとも思われます。

(フィリピン・ウォッチャー)

○<「上意下達」からの脱却こそ

「社会変革の」前提>

わたしが申し上げたかったことは、「自ら」―「考え・学び・判断し・実践し・結果責任」をとる「個人」の育成です。上野千鶴子『当事者意識』(岩波新書)で論じられている事から多分に影響を受けました。資本主義社会は「抑圧～の自由」を勝ち取り、成立した社会であります。しかし日本に於いては十分に言い尽くされています様に「革命」を全く体験せず、「維新」を迎え、「敗戦後」を迎え、「憲法制定勢力」など形成されず「日本国憲法」を与えられ、明治維新後の「翻訳」により欧米思想を「移入」しました。様々な観念はまさしく闘わず「手に入れた」「観念」以上には「血肉化」されず、何事も「与えられ」たものとしてののみ、わたしたちの「前」に「現前化」されています。

(木戸泰幸)

○<日本にはポテンシャルがある>

日本にしろ世界にしろ。最後の断末魔と言っては不

謹慎かもしれませんが、不正がどんどん発覚していきます。仏教的真理は無常であり、全て変わっていく。ただ、未来はまだ決まっていません。だからこそ、この度の地震などでも、改善策が講じられてきていたことが功を奏しているようです。そういったことを訓練して非常事態に備えてきた日本社会の底力が現れていると思います。日本は、一見すると力をなくしてきているようにも見えますが、実際にはそのポテンシャルはすごいものがあると思っています。日本人である縁を喜ばしく思っています。(Eiji)

○<古い構造がもっと崩れていくように>

ジャニーズ、宝塚、吉本のいままで隠蔽してきた闇が暴露されつつあることは、どうしようもない日本の惨状のなかでかすかな光かもしれません。話は飛躍しますが世界的な暴露ということだとイスラエル問題についても同様の事がある気がして、今回の出来事をきっかけに購入した書籍があります。それは『ユダヤ人の起源』という題で、テルアビブ大学のシュロモーサンド教授の著作です。

その本にはイスラエルを建国したシオニストのほとんどがアシュケナージ[東欧系ユダヤ人]で、聖書に書かれているユダヤ人とはまったく関係のないカザール王国をルーツに持つユダヤ人だということです。さらに、いま虐殺されているパレスチナ人が聖書に書かれているユダヤ人の直接の子孫あること、また旧約聖書はなんと新約聖書の200年ぐらいい後に成立しユダヤ人の正統性を主張するために、恣意的な物語が埋め込まれている可能性を指摘しています。

これを言うとヒステリックに陰謀論だとわめきたてる人も多いですが、これが事実だとするとイスラエル問題に対する見方もかなり変わってくるのではないかと思います。とにかく今年はずっといままで隠蔽されてきたことが暴露されて古い構造が崩れていくことを期待します。(たなか)



<この一冊> 中村梧郎著『記者狙撃－ベトナム戦争とウクライナ』(花伝社、2023年刊)

本書の著者中村氏は、ベトナム戦争をレポートしたベストセラー『母は枯葉剤を浴びた』の報道写真家である。標題の「記者狙撃」とは、そのベトナム戦争4年後に行われた中国のベトナム侵略中に起きた出来事である。国境近くの戦場で、追い越していった友人記者が狙撃され亡くなったのだ。

その悲しみと怒りを伝えるのには時間が必要だった。いま新たにロシアによるウクライナへの侵略が行われている。(そして本書刊行直後に、イスラエルのガザへのジェノサイドが行われた。)中村氏は、侵略戦争の本質、その実像を今こそ改めて語りつがねばならない、と決意されて刊行された。

まずは中国のベトナム越境戦争での実相である。戦場での取材は不安・恐怖に晒されての命がけの作業である。自分の身代わりのように亡くなった友人記者への思いやり、悲しさが随所に伝わってくる。彼を救おうとしたベトナムの人たちが、友人として丁重に対応された姿も心を打つ。いのちを賭して侵略者と戦っている者と、その真実の有様を報じようとする者との、すばらしい魂のつながりがそこにあった。

次に、時間的にはその前のベトナム戦争の始まりから終結までが明快に記されている。さらにそこで使用された枯葉剤による残虐な被害の実相が語られる。それは加害のアメリカ兵にも及び、有名な片腕欠陥で生まれた少女の写真など、それこそ著者でしか

できないリアルな報告が行われている。

そして今回のウクライナ戦争。著者は、これは紛れもないロシアによる侵略戦争であると断じ、ベトナム戦争で行われた徹底的な破壊、殺戮と同様に、これを許してはならないと強く主張されている。

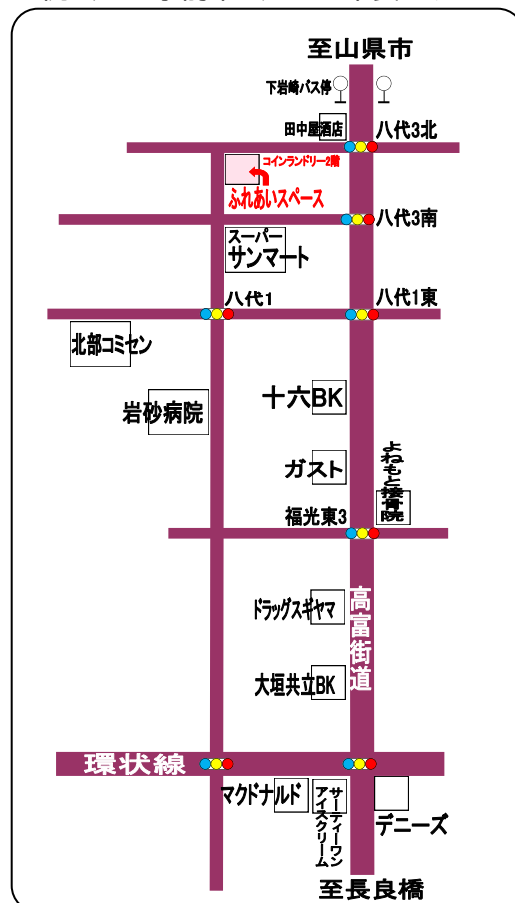
むすびでは、今日本で進められている大軍拡、戦争準備態勢に警告を発しておられる。いまぜひ手にとって読んでいただきたい本である。

(sensyu)



例会会場案内

例会への事前申し込みは不要です



哲学カフェ186回例会

時刻: 2024年2月8日(木) 07:00 PM~

テーマ 「国家予算、ほんとにこれで良いのですか？」

以下のURLかミーティングID、パスコードで入室できます。
パソコン、スマホ、タブレットのいずれかでどうぞ。

参加 Zoom ミーティング

[https://us02web.zoom.us/j/83286115122?](https://us02web.zoom.us/j/83286115122?pwd=QndybzVqampHM3FtaHJMcXd1UkpNUT09)

[pwd=QndybzVqampHM3FtaHJMcXd1UkpNUT09](https://us02web.zoom.us/j/83286115122?pwd=QndybzVqampHM3FtaHJMcXd1UkpNUT09)

ミーティング ID: 832 8611 5122

パスコードを設定する: 854517

右のQRコードからも参加できます。

お手持ちのスマホでQRコードを読み取るとそのまま入場できます



哲学カフェ 第30期(2024年前半)例会予定 *毎月第2木曜日、午後7:00~9:00

ふれあいスペース⇒コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第187回 1月11日(木)	「日本の行く末を考える」 *2023年は、気候危機に新たな戦争の危機が加わり、世界は混迷の度を深めた。 *激変する世界の中で、弱体化する一步の日本は、どのような道を歩めば良いのか。
第188回 2月8日(木)	「国家予算、ほんとにこれで良いのですか？」 *予算112兆円、税収70兆円弱。その約4分の1は国債費(借金)。健全財政全く無視・いやはや。 *支出では大企業優遇、過去最大の軍事費8兆円弱。国民生活関連軒並み減額・いやはや。
第189回 3月14日(木)	「災害列島日本・・・「想定外」で済ませないために。」 *今回の「能登半島地震」も被害甚大。またまた「想定外」?! こんなことでよいのか? *異常気象が常態化する中で、今こそ「安全の哲学」に基づく備えが必要でしょう。
第190回 4月11日(木)	教育分野のテーマで提案願います。

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願ひします。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願ひます。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



わいわいがやがや



アラカルト

★人が死ぬということは、たとえ大往生でも、自然死でも、予期できた病死でも悲しいことである。だが、災害・事故などによる突然の死、予想できなかった殺人などによる死の悲しみは大きい。中でも戦争や差別・迫害で、無抵抗な子ども・若者、女性が犠牲になるのは何といても言いようがない。

★その戦争の最前線、イスラエルによるガザへの攻撃で、ガザ地区保健当局発表では、死者は1月25日現在で、25900人、その6割が子ども・女性だった。「国連人権監視団発表(昨年11月)によるとウクライナでの民間人の死者は1万人以上で、子どもは560人余りである。・・・双方共にまったく許せない。

★ところで、近日の新聞発表で、日本での昨年の自殺者数が21818人と

知った。戦争の犠牲者と自殺者、一方は死ななくてもよいのに死なされた人々。他方は自分で死ぬことになった人。全く異なる道筋で亡くなったこの多くの人たち。なぜか言い知れぬ怒りがふつつつとわき上がってきた。

★そう思ったのは何だろうか。どうやらその人々を死なせた要因が、根底で同じではないか、ということにたどり着いた。それは戦争によって殺される死であれ、様々な理由での自殺であれ、多くは個々人の責任によってではなく、社会的な圧力や国家の要請・権力によってもたらされたものだという事である。

★男性の自殺者では生活苦や事業不振が多いのは近年の社会状況の結果だが、小中校生の自殺が514人もあり、学業不振・進路の悩みだという。これはあきらかに社会からの圧力の結果であろう。残虐な戦争、貧困格差の増大・競争激化の社会による犠牲者を減らし、願わくばゼロにしたいものである。

(吉田千秋)